科目名	衛生学・公衆衛生学		担当教員	大窄　貴史	
単位	2単位	講義区分		ナンバリング	ED1PHG101
期待される学修成果	教科教育　学校と社会				
ｱｸﾃｨﾌﾞ・ﾗｰﾆﾝｸﾞの要素	該当なし				
実務経験	高校教諭（講師含む）				
実務経験を生かした授業内容	学校現場の経験を生かし子どもの心と体に関する健康問題及び集団の健康等の事例を扱う				
到達目標及びテーマ	衛生学・公衆衛生活動の具体例を知り、衛生学・公衆衛生活動の有用性を説明できる。また、心身の健康増進に向け、衛生学・公衆衛生学の観点から対策を考え、応用することができる。				
授業の概要	集団の健康及び人が健康な生活を保持増進するためには、どのような方策があるのかを考える学問である。個人及び集団がどのような条件で病気を発症するのか。また、人々の健康の保持増進を促すためには、何を実践しなければならないのか、について解説する。				

授業計画	
第1回	オリエンテーション、衛生学・公衆衛生学序論
第2回	健康の概要
第3回	人口動態統計
第4回	母子保健、人工妊娠中絶
第5回	生活習慣病①　高血圧症、心疾患、脳血管疾患
第6回	生活習慣病②　糖尿病、脂質異常症、メタボリックシンドローム
第7回	生活習慣病③　悪性新生物
第8回	感染症と予防接種
第9回	上下水道、小テスト
第10回	食中毒、小テストの解説
第11回	食品衛生、小テストの解説
第12回	国民医療制度
第13回	産業保健①　労働安全、労働災害、職業病
第14回	産業保健②　精神疾患
第15回	まとめと試験

事前学修	2時間	①生活習慣病について調べる。 ③主な微生物と人がり患しやすい感染症を調べる。 ③労働安全について、学校及び公務員の休職及び退職理由について調べる。 ④集団の健康を保持増進する際、どのような取り組みが考えられるか調べる。
事後学修	2時間	集団における健康の保持増進を図るためには、何が必要で、何が重要かについて衛生学・公衆衛生学的観点からまとめる。
ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	小テストは、実施した翌週の講義内でポイントを解説し、学習課題を各自が再度把握する。まとめの試験に対するフィードバックは、模範解答を作成し、試験終了後に配布・解説する。	

成績評価方法	割合（%）	評価基準等
レポート	15%	毎回、講義内容に関するショートレポートで評価する。
上記以外の試験・平常点評価	85%	小テスト（25%）、まとめの試験（60%）

定期試験	0%	なし
補足事項	小テスト及びまとめの試験を受験しなかったものは、評価しない。また、小テスト及びまとめの試験は持ち込み不可とする。	

教科書				
書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし	なし	なし	なし	なし
参考資料	なし			